

## 「コンベンション・展示機能を備える施設に係る整備可能性調査」報告書【要点】

## 第1章 県内外の「コンベンション・展示機能を備える施設」の調査

## 1 県外施設

(1)調査対象施設 【67施設】

(2)調査結果(概要)

①施設の区分	【コンベンション施設】20施設, 【展示施設】30施設, 【その他】17施設
②施設の所管	【公共関与】88%, 【民間】12%
③運営手法	【公共メイン】52%, 【民間委託】35%, 【民間・その他】13%
④収支状況	【政令指定都市】40%赤字, 【その他都市】76%赤字
⑤行政支出状況	【政令指定都市】32%あり, 【その他都市】79%あり
⑥稼働率(直近10年)	【政令指定都市】70%超, 【その他都市】50%未満
⑦稼働率(コロナ前後)	すべての施設で減少
⑧整備費の傾向	(参考)機能等諸条件により整備費は大きく異なる。400億円以上も複数あり

## 2 県内施設

(1)調査対象施設 【9施設】

(2)調査結果

## ①開催のすみ分け状況

- 3,000㎡以上の展示会が開催可能な施設が不足している
- 1,000名以上が一同に集まりかつ分科会を実施するような式典形式のコンベンションが単独開催可能な施設が不足している

## 【県内施設のすみ分けの状況】

施設名	エリア	コンベンション										展示会 (㎡)							
		学会形式 (名)					式典形式 (名)												
		500未満	500~999	1,000~2,999	3,000~4,999	5,000以上	500未満	500~999	1,000~2,999	3,000~4,999	5,000以上	500未満	500~999	1,000~2,999	3,000~4,999	5,000以上			
鹿児島県総合体育センター体育館	与次郎								●										
川商ホール (鹿児島市民文化ホール)	エリア	○	○	●				○	○	●									
鹿児島サンロイヤルホテル		○	○	●				○	○										
西原商会アリーナ (鹿児島アリーナ)										●	●	●			○				
宝山ホール (鹿児島県文化センター)	城山			●	●	●			○	●									
城山ホテル鹿児島	エリア	○	○	○	●	●		○	○	●					○	○			
かごしま県民交流センター		○	○												○				
SSプラザ川内 (薩摩川内市川内駅コンベンションセンター)	川内 エリア	○	○												○	○			
鹿児島大学	大学	○	○	○															

※物理的な開催可能性ではなく、現状の県内施設の施設特性や開催傾向などからの主なすみ分けの状況として整理をしている。

○単独での開催が想定できる区分

●主にエリア内の他会場での併用を前提に開催が想定できる区分。主会場になり得る施設にマーク。

※1,000㎡を若干超える規模の平土間の会場を持つ施設(SSプラザ川内、城山ホテル鹿児島、鹿児島サンロイヤルホテル)はあるが、最大200㎡程度の超過であるため1,000㎡未満として整理する

## ②稼働率

- 県内施設の稼働率は75%で高止まり、土日はいずれの施設も高稼働
- ただし、西原商会アリーナ(優先予約対応)や民間施設(ホテル)等を中心に、受入余地が残されている

## 【県内施設の稼働状況】

施設正式名称	稼働率	稼働率備考
西原商会アリーナ (鹿児島アリーナ)	91.1%	H30、メインアリーナ
川商ホール (鹿児島市民文化ホール)	73.0%	H30、第1ホール
	77.0%	H30、第2ホール
宝山ホール (鹿児島県文化センター)	84.1%	H30、宝山ホール
かごしま県民交流センター	85.7%	H30、3ホール合計
	43.0%	H30、ギャラリー合計
	78.5%	H30、会議室等合計

# 「コンベンション・展示機能を備える施設に係る整備可能性調査」報告書【要点】

## 第2章 MICEの市場動向等に関する調査

### 1 新型コロナウイルスの影響

#### (1)コンベンション

- ・ オンライン開催やハイブリッド化が進んでおり、今後もハイブリッド化が進む可能性が高いと考えられる
- ・ 一方、その移行期である現時点での予測は難しい

#### (2)展示会（出典：UFI(国際見本市連盟)調査報告書 2021年6月時点調査）

- ・ 展示会の再開時期は、国際展示会、全国展示会、ローカル展示会のいずれでも、2022年前半には再開見込みと予測
- ・ 展示会の開催方式については、ハイブリッド開催などデジタル要素の導入は進むものの、リアル開催の代替とはならない

### 2 新型コロナウイルスの影響を受けているMICE計画

- ・ 少なくとも全国で3件(北海道札幌市、福岡県福岡市、沖縄県与那原町・西原町)が計画を見直し

### 3 本県におけるMICEの需要予測

#### (1)コンベンション

区 分	～499名	500～999名	1,000～2,999名	3,000名～
①県内の既存需要（年当たり） （直近3箇年(2017～2019年平均)）	109件	22件	12件	3件
②年平均成長率(3箇年平均)	2.5%	5.0%	-1.5%	3.7%
③市場成長	11～17件増加	5～7件増加	1件減少	0～1件増加
④上振れ要素 （人口規模類似県との比較により算出）	27～44件増加	6～10件増加	2～4件増加	1件増加
⑤2030年需要予測合計(①+③+④)	147～170件	33～39件	13～15件	4～5件

#### ⑥関係者へのヒアリング結果

- ・ コロナ禍の影響もあり、施設を新たに整備するほどの需要の将来見込みを現時点で判断するのは困難
- ・ 既存施設の有効活用である程度の需要の取り込みが可能

#### (2)展示会

区 分	全 体	うち大規模展示会(5.4%相当)(※)
①県内の既存需要(2019年)	148件	8件
②市場成長	40件増加	2件増加
③上振れ要素 （経済規模類似県との比較により算出）	26件増加	2件増加
④2030年需要予測合計(①+②+③)	214件	12件

※西原商会アリーナでの展示会件数が県全体に占める割合(5.4%)を参考に算出

#### ⑤関係者へのヒアリング結果

- ・ 大きな施設や使い勝手のよい施設ができれば、それに合わせた企画検討も可能
- ・ 新施設ができれば、一定程度の需要増加の可能性あり

#### (3)「スポーツ・コンベンションセンター(※)」の需要予測

- ・ 「その他イベント(MICE等)」として、年間10～14件程度が見込まれている

##### 【上位予測(14件)】

- ・ 類似施設におけるその他イベントの開催数平均14.0件～14.3件
- ・ 民間事業者等ヒアリング結果より、月1回(年間12件)以上の開催可能性との意見あり

##### 【下位予測(10件)】

- ・ 民間事業者等ヒアリング結果より、閑散期(2月、8月)はイベント開催が難しいとの意見あり

※令和4年2月4日に総合体育館基本構想検討委員会から県へ提出された「鹿児島県総合体育館基本構想(案)」における新総合体育館のこと

# 「コンベンション・展示機能を備える施設に係る整備可能性調査」報告書【要点】

## 第3章 本県に必要なコンベンション・展示機能を備える施設整備の条件整理等①

### 本県におけるMICE開催に係る現状と課題

#### (1) 県内施設(ハード面)

県内施設において、特に不足している機能は以下のとおり。

#### ①大規模の会場(3,000㎡以上、収容人数6,000人以上)

- 西原商会アリーナのメインアリーナが収容人数5,700人、面積2,730㎡で県内最大級であり、6,000人以上の規模を一堂に収容する必要があるコンベンションは開催できず、3,000㎡以上の規模の展示会は開催できない。

#### ②コンベンションにおいてニーズの高い中規模の会議室や多目的ホール(200㎡～1,000㎡未満)

- 学会等でのサブ会場や式典の分科会等として利用しやすい200㎡～1,000㎡未満の会議室・多目的ホールは、県内には5つしかない。
- 200㎡～1,000㎡未満の会議室・多目的ホールが同一施設内に複数ある施設は、かごしま県民交流センターのみ。

#### ③フレキシブルに使える分割可能な平土間(1,000㎡以上)

- 本県においては、バンケットを除く1,000㎡以上の会場については、固定席の劇場ホール(宝山ホール、川商ホール)や体育館のアリーナ(西原商会アリーナ、鹿児島県総合体育センター体育館)が中心となっており、平土間(1,000㎡以上)が1つしかない。
- 展示会としては、固定席の会場は使用できず、アリーナは床構造などの面で利用にあたっては課題がある。
- コンベンションにおいては、見映えが悪いという観点から「広過ぎる」ことが課題になる場合があり、分割してフレキシブルに使える会場が望まれる。

【県内施設(8施設)の会場の分布】

	1-49㎡	50-99㎡	100-149㎡	150-199㎡	200-399㎡	400-599㎡	600-999㎡	1,000-1,499㎡	1,500-1,999㎡	2,000-2,999㎡	3,000㎡以上	会場数合計
会議室	3	7	10	9	2 【宝山】 【SS川内】	②			③			31
多目的ホール					1 【県交(中ホール)】	2 【川商(4F)】 【県交(大ホール)】		1 【SS川内】				4
展示場			1 【県交(ギャラリー-3)】			1 【県交(ギャラリー-2)】	1 【県交(ギャラリー-1)】				①	3
劇場ホール						1 【県交(県民ホール)】	1 【川商(第2)】		2 【宝山】 【川商(第1)】			4
バンケット		3	5	4	4	1	1	2				20
												【城山ホテル鹿児島、鹿児島サンロイヤルホテル】
アリーナ						1 【体(サブ)】		2 【アリーナ(サブ)】 【体(メイン)】		1 【アリーナ(メイン)】		4
合計	3	10	16	13	7	6	3	5	2	1	0	66

※【アリーナ】西原商会アリーナ、【体】鹿児島県総合体育センター体育館、【川商】川商ホール、【宝山】宝山ホール、【県交】かごしま県民交流センター、【SS川内】SSプラザ川内

#### (2) 施設以外(ソフト面)

ヒアリング等結果による施設以外の改善すべき点は以下のとおり。

- MICE利用の優先予約などの制度整備
- 既存施設の活用(分散開催の推進)
- 行政的支援による主催者の負担感軽減
- ユニークメニューの充実など既存施設の更なる活用

## 現時点における施設整備の検討パターン

- コンベンション・展示のいずれにも対応できる**総合的MICE施設の整備**【参考:出島メッセ長崎】
- 県内に特化型施設がない**展示機能に軸足を置いた施設の整備**【6,000㎡の展示面積を持つ展示場】
- 現在検討が進められている他の施設の活用【**スポーツ・コンベンションセンター**】

# 「コンベンション・展示機能を備える施設に係る整備可能性調査」報告書【要点】

## 第3章 本県に必要なコンベンション・展示機能を備える施設整備の条件整理等②

### 施設整備の条件整理

項目		総合的MICE施設	展示施設	スポーツ・コンベンションセンター	
施設 条件	最大会場面積	3,500㎡	5,000㎡	(基本構想(案)より) 3,726㎡+α ※詳細については、今後検討	
	諸室数	20室	10室	(基本構想(案)より) ・サブアリーナ 講演やシンポジウム等の会場としての利用を想定 ・柔剣道場 ワークショップ、パネルディスカッション等の会場としての利用を想定 ・会議室 講演やシンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッション等の会場としての利用を想定 ※詳細については、今後検討	
機能	機能性	コンベンション	極めて高い	限定的	限定的
		展示	高い	極めて高い	限定的
	開催可能性のある催事との親和性	コンベンション	小規模催事～大規模催事にフレキシブルに対応可能	大規模催事の主会場や分科会会場	大規模催事の主会場
		展示	柔軟に対応可能	大規模展示会の開催可能	大規模展示会の開催可能性があるが、スポーツ利用との重複可能性高い
	課題への対応	規模	対応可能	一定程度対応可能	一定程度対応可能
		構成	対応可能	「フレキシブルに使える会場」が課題として残る	「中小規模の会議室」、「フレキシブルに使える会場」が課題として残る
		その他	優先予約等については、いずれの施設であっても対応が必要		
需要予測の充足性	既存施設で対応できる部分も多いことから、既存施設の需要減の可能性大	新たな施設として需要を喚起することはできるが、稼働を下支えするほどの需要を生み出せるかは未知数	年間14回をMICE等での活用が見込まれ、新たな需要の創出も一定程度できる		
周辺施設との連携	大規模催事以外は、既存施設の需要減	大規模コンベンションの場合は連携による効果大 一方、既存施設の需要減	大規模コンベンションの場合は連携による効果大 既存施設とのすみ分けも可能		
費用	整備費	150億円 (参考:出島メッセ長崎)	90億円 (参考:島根県立産業交流会館)	スポーツ・コンベンションセンター整備費のみ	

- 考慮すべき事項**
- ① 近年、新たな施設の整備(予定含む)により、中小規模の多目的ホールや会議室が供給されている。
  - ② コンベンションや展示会の開催においては、宿泊施設や飲食施設との連携が重要となる。
  - ③ コンベンションの開催においては、域外からの来場者が多いことから交通利便性が求められる。
  - ④ MICE施設は公共関与の割合が高い、必ずしもコンベンション・展示会の需要だけで稼働を満たしているわけではない、政令指定都市以外の都市に立地する約8割の施設で行政支出が行われているという傾向がある。
  - ⑤ コロナ禍の影響に伴う回復見込みの難しさと、県として急激な需要増加が見込めない中で、既存施設とのすみ分けなどを考慮する必要性と整備コストなどの兼ね合いを考慮することも必要である。

# 「コンベンション・展示機能を備える施設に係る整備可能性調査」報告書【要点】

## 第3章 本県に必要なコンベンション・展示機能を備える施設整備の条件整理等③

### まとめ

- MICEの誘致にあたり、新たに「総合型MICE施設」や「展示施設」を整備することが望ましいが、コロナ禍の影響を踏まえると、市場変化の過渡期であり、将来的な需要見込みの変動リスクも高い。
- また一方、各種ヒアリング結果などでは、既存施設の有効活用等により、コンベンションや展示会の開催件数増加の可能性も示されている。
- これらのことから、まずは、一定のコンベンション・展示機能を有する「スポーツ・コンベンションセンター」が整備される見込みであることから、**当該施設が有する機能を最大限活用することが最善**である。
- なお、今後、コロナ禍などの影響もなくなり、コンベンションなどの需要が回復し、既存施設では需要を充足できない状況となった場合には、新たなコンベンション・展示機能の必要性や整備手法について検討する余地はある。

### ○ 「スポーツ・コンベンションセンター」において開催が想定されるコンベンション・展示会

ドルフィンポート跡地等に「スポーツ・コンベンションセンター」（フロア面積3,726㎡+α、収容人員8,000名程度）が立地した場合に利用が想定されるコンベンション・展示会は以下のとおり

- ①概ね3,000㎡以上の規模で実施される展示会（及び各種屋内イベント）
  - ②概ね6,000名以上が同一の場所に集まる形で開催されるコンベンション（の主会場）
  - ③城山エリアや鹿児島中央駅から天文館にかけて新たに整備される施設などと連携したコンベンションの開催
- ※③については、第4章に記述

### ○ これまで本県で開催できなかった規模の需要

- ①概ね3,000㎡以上の規模で実施される展示会  
・需要予測（P2）より、2030年度の大規模展示会：12件（現状8件、4件増加）

#### 【開催可能性のある展示会】

- ・地域の産業振興を目的とした展示会、ビジネスマッチング、県民向け展示即売会
- ・企業が行うプロモーション、販促系イベント、県民向け文化イベント

- ②概ね6,000名以上が同一の場所に集まる形で開催されるコンベンション  
・需要予測（P2）より、2030年度の3,000名以上コンベンション：4～5件（現状3件、1～2件増加）  
（※6,000名以上の区分の需要予測データなし  
全国の6,000名以上の国際会議件数：年51件（2019年）（国際会議統計資料編3より）

#### 【開催可能性のあるコンベンション】

- ・医学、自然科学・工学系の学会、スポーツ系コンベンション
- ・行政・教育、その他業界団体等の組織系の全国大会

- ◎ これまで規模の制約からできなかった規模の需要喚起が可能になる。

# 「コンベンション・展示機能を備える施設に係る整備可能性調査」報告書【要点】

## 第4章 ドルフィンポート跡地等におけるコンベンション・展示機能を備える施設整備の条件整理等

### (1)前提

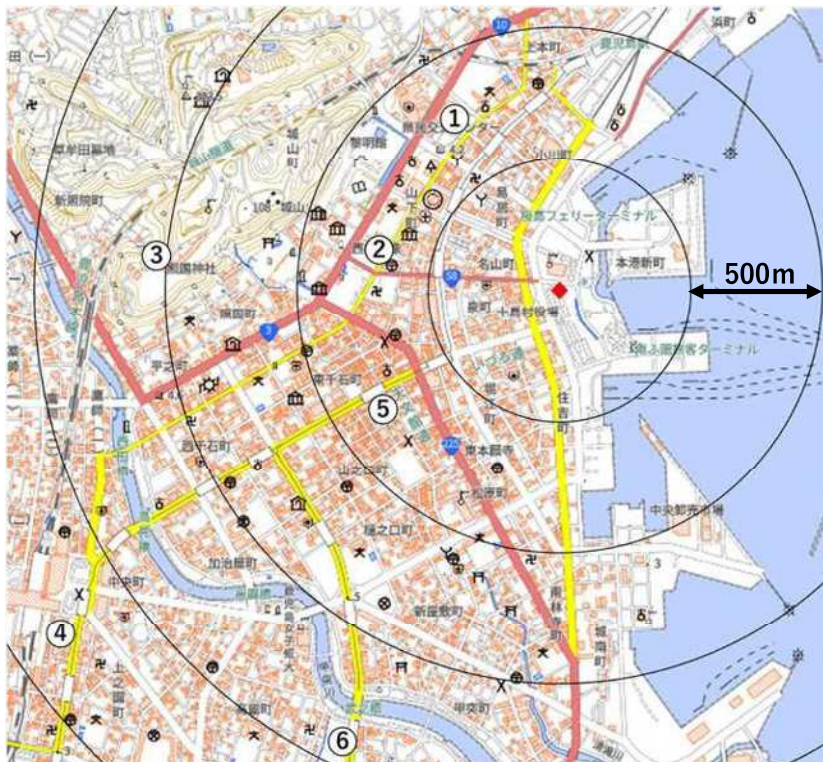
第3章の整理から、現状においては、「スポーツ・コンベンションセンター」を活用することが最善である。

### (2)「スポーツ・コンベンションセンター」のコンベンションや展示会の会場としての活用

スポーツ・コンベンションセンターをコンベンションや展示会の会場として活用する場合、

- ・これまで本県では開催できなかった規模感のものが開催可能となる。
- ・スポーツ・コンベンションセンターを主会場とし、周辺の施設を分科会場として活用することなども想定されることから、周辺施設との連携が重要となる。

【連携が期待される周辺施設】



番号	施設名	移動距離	施設概要
①	かごしま県民交流センター	約1km	ホール(約590㎡) 会議室, 展示ホール等(12室, 計2,241㎡)
②	宝山ホール(鹿児島県文化センター)	約800m	ホール(約1,522㎡) 会議室等(7室, 計1,035㎡)
③	城山ホテル鹿児島	約1.8km	宴会場(約1,017㎡) 会議室, 宴会場等(18室, 3,148㎡)
④	Li-Ka1920	約2.2km	ホール(約350㎡) 会議室(3室, 計314㎡)
⑤	センテラス天文館	約700m	ホール・会議室(466㎡) 【※令和4年4月開業予定】
⑥	シェラトン鹿児島	約2.1km	宴会場1室, 会議室3室 【※令和5年春開業予定】

- 近隣エリアに新たに整備された施設等も含めた既存施設と連携を行い、それぞれの施設の特性を活かし相乗効果を生み出すという観点からも、まずは、「スポーツ・コンベンションセンター」を活用することが最善である。
- なお、今後、コロナ禍などの影響もなくなり、コンベンションなどの需要が回復し、既存施設では需要を充足できない状況となった場合には、新たなコンベンション・展示機能の必要性や整備手法について検討する余地はある。